

Sun Ultra™ 24 Workstation オペレーティングシステム インストールガイド



Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

部品番号 820-3654-10
2007年11月、改訂A

本書についてのご意見・ご感想は、<http://www.sun.com/hwdocs/feedback> のフォームを使って弊社までお送りください。

Copyright © 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

本製品にはサードパーティーによって開発された素材が含まれている可能性があります。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴ, Java, Netra, Solaris, Sun Ray, Sun Ultra, Java Coffee Cup のロゴ, Solaris のロゴ, Sun Ultra 24, Ultra 24, Sun および Sun Microsystems Inc. は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Intel® は、米国およびその他の国における Intel Corporation またはその関連会社の商標または登録商標です。Intel Inside® は、米国およびその他の国における Intel Corporation またはその関連会社の商標または登録商標です。

本製品は、米国輸出管理法の対象であり、これらの法律により管理されます。また、その他の国の輸出または輸入に関する法律の対象となる可能性があります。原子力、ミサイル、生物化学兵器、または海洋核戦力の最終用途での本製品の使用、またはそれらに携わるエンドユーザーによる本製品の使用は、直接あるいは間接を問わず、固く禁じられています。米国の通商禁止国または輸出禁止リストに掲載されている団体、禁止対象の個人や特別に指定された国の国民などに対する輸出または再輸出は固く禁じられています。

CPU の予備品または交換品の使用は、米国の輸出法に準拠して輸出された製品の CPU の修理または 1 対 1 での交換に限り許可されています。米国政府の許可を得ることなく、製品のアップグレード目的で CPU を使用することは、固く禁じられています。

Copyright © 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, Etats-Unis. Tous droits réservés.

Cette distribution peut inclure des éléments développés par des tierces parties.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, Netra, Solaris, Sun Ray, Sun Ultra, le logo Java Coffee Cup, le logo Solaris, Sun Ultra 24, Ultra 24, Sun et Sun Microsystems Inc. sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

Intel est une marque de fabrique ou une marque déposée de Intel Corporation ou de sa filiale aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

Ce produit est soumis à la législation américaine sur le contrôle des exportations et peut être soumis à la réglementation en vigueur dans d'autres pays dans le domaine des exportations et importations. Les utilisations finales, ou utilisateurs finaux, pour des armes nucléaires, des missiles, des armes biologiques et chimiques ou du nucléaire maritime, directement ou indirectement, sont strictement interdites. Les exportations ou reexportations vers les pays sous embargo américain, ou vers des entités figurant sur les listes d'exclusion d'exportation américaines, y compris, mais de manière non exhaustive, la liste de personnes qui font objet d'un ordre de ne pas participer, d'une façon directe ou indirecte, aux exportations des produits ou des services qui sont régis par la législation américaine sur le contrôle des exportations et la liste de ressortissants spécifiquement désignés, sont rigoureusement interdites. L'utilisation de pièces détachées ou d'unités centrales de remplacement est limitée aux réparations ou à l'échange standard d'unités centrales pour les produits exportés, conformément à la législation américaine en matière d'exportation. Sauf autorisation par les autorités des Etats-Unis, l'utilisation d'unités centrales pour procéder à des mises à jour de produits est rigoureusement interdite.



リサイクル
してください



Adobe PostScript

目次

はじめに v

1. インストールの概要 1-1
2. Solaris のインストール 2-1
 - 2.1 オペレーティングシステムの選択とアップデート 2-1
 - 2.2 BIOS を Solaris 用に設定する 2-2
 - 2.3 LSI RAID の設定 2-2
 - 2.4 現在インストールされている OS の消去 2-3
 - 2.4.1 診断パーティションについて 2-3
 - 2.4.2 現在インストールされている OS の消去 2-3
 - 2.5 Solaris OS のインストール 2-4
 - 2.6 ドライバのインストール 2-4
3. Linux のインストール 3-1
 - 3.1 オペレーティングシステムの選択とアップデート 3-1
 - 3.2 BIOS を Linux 用に設定する 3-2
 - 3.3 LSI RAID の設定 3-2
 - 3.4 現在インストールされている OS の消去 3-3
 - 3.4.1 診断パーティションについて 3-3
 - 3.4.2 現在インストールされている OS の消去 3-3

- 3.5 Linux OS のインストール 3-4
- 3.6 ドライバのインストール 3-4
 - 3.6.1 Linux ドライバのインストール 3-4

- 4. Windows OS およびドライバのインストール 4-1**
 - 4.1 Windows OS 用の BIOS の設定 4-2
 - 4.1.1 Windows OS、Intel SATA、RAID 用のシステム BIOS の設定 4-2
 - 4.1.2 Intel Matrix Storage Manager オプション ROM の設定 4-3
 - 4.1.3 LSI RAID の設定 4-4
 - 4.2 診断パーティションについて 4-4
 - 4.3 ブートハードディスクドライブのパーティションの消去 4-5
 - 4.4 Windows の手動インストール 4-6
 - 4.4.1 Intel SATA および RAID ドライバフロッピーディスクの作成 4-6
 - 4.4.2 フロッピーディスクを使用した Windows のインストール 4-7
 - 4.4.3 フロッピーディスクを使用した Windows Vista のインストール 4-8
 - 4.4.4 NVIDIA グラフィックドライバおよび RealTek オーディオドライバのインストール 4-8
 - 4.5 XpReburn スクリプトによるドライバの入った Windows CD の作成 4-9
 - 4.5.1 要件 4-9
 - 4.5.2 2003Reburn または XpReburn の使用 4-10

- A. Linux および Solaris OS リモートイメージのインストール A-1**
 - A.1 PXE サーバーからの LINUX のインストール A-1
 - A.2 JumpStart™ サーバーからの Solaris のインストール A-2

はじめに

本書『Sun Ultra 24 Workstation オペレーティングシステムインストールガイド』では、Solaris™、Linux、および Windows オペレーティングシステムの設定に必要な情報について説明します。

シェルプロンプト

シェル	プロンプト
C シェル	<i>machine-name%</i>
C シェルスーパーユーザー	<i>machine-name#</i>
Bourne シェルと Korn シェル	\$
Bourne シェルと Korn シェルスーパーユーザー	#

表記上の規則

書体*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、および画面上のコンピュータ出力を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力とは区別して示します。	% su Password:
AaBbCc123	書名、新しい用語、強調する語句、および変数を示します。変数の場合には、実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	『 <i>User's Guide</i> 』の第 6 章を参照してください。 これらはクラスオプションと呼ばれます。 これを行うには、スーパーユーザーである必要があります。 ファイルを削除するには、rm <ファイル名> と入力します。

* ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

関連ドキュメント

Sun Ultra 24 Workstation のドキュメントセットについては、システムに付属している『*Where To Find Documentation* (ドキュメントの場所)』シートで説明しています。すべてのドキュメントは、製品ドキュメントサイトで公開されています。次の URL を参照してください。

<http://www.docs.sun.com>

これらのドキュメントの一部については、製品ドキュメントサイトで簡体字中国語、繁体字中国語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、韓国語、およびスペイン語版が入手可能です。

英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

ドキュメント、保証、サポート、および トレーニングの URL

分野	URL	説明
ドキュメント	http://docs.sun.com	Sun のドキュメント。
保証	http://www.sun.com/service/support/warranty/index.html	保証に関する詳細な情報が確認できます。
サポート	http://www.sun.com/support/	パッチなどのテクニカルサポートを利用できます。
トレーニング	http://www.sun.com/training/	Sun の各種トレーニングコースや教育サービスについて案内しています。

サードパーティーの Web サイト

Sun 社は、本書で挙げているサードパーティーの Web サイトの利用について責任を負いません。また、当該サイトまたはリソースから入手可能なコンテンツや広告、製品またはその他の素材を推奨したり、責任あるいは法的義務を負うものではありません。さらに、他社の Web サイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際の、または疑わしい損害や損失についても責任を負いません。

コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトを通してお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号の記載をお願いいたします。
Sun Ultra 24 Workstation オペレーティングシステムインストールガイド、
820-3654-10。

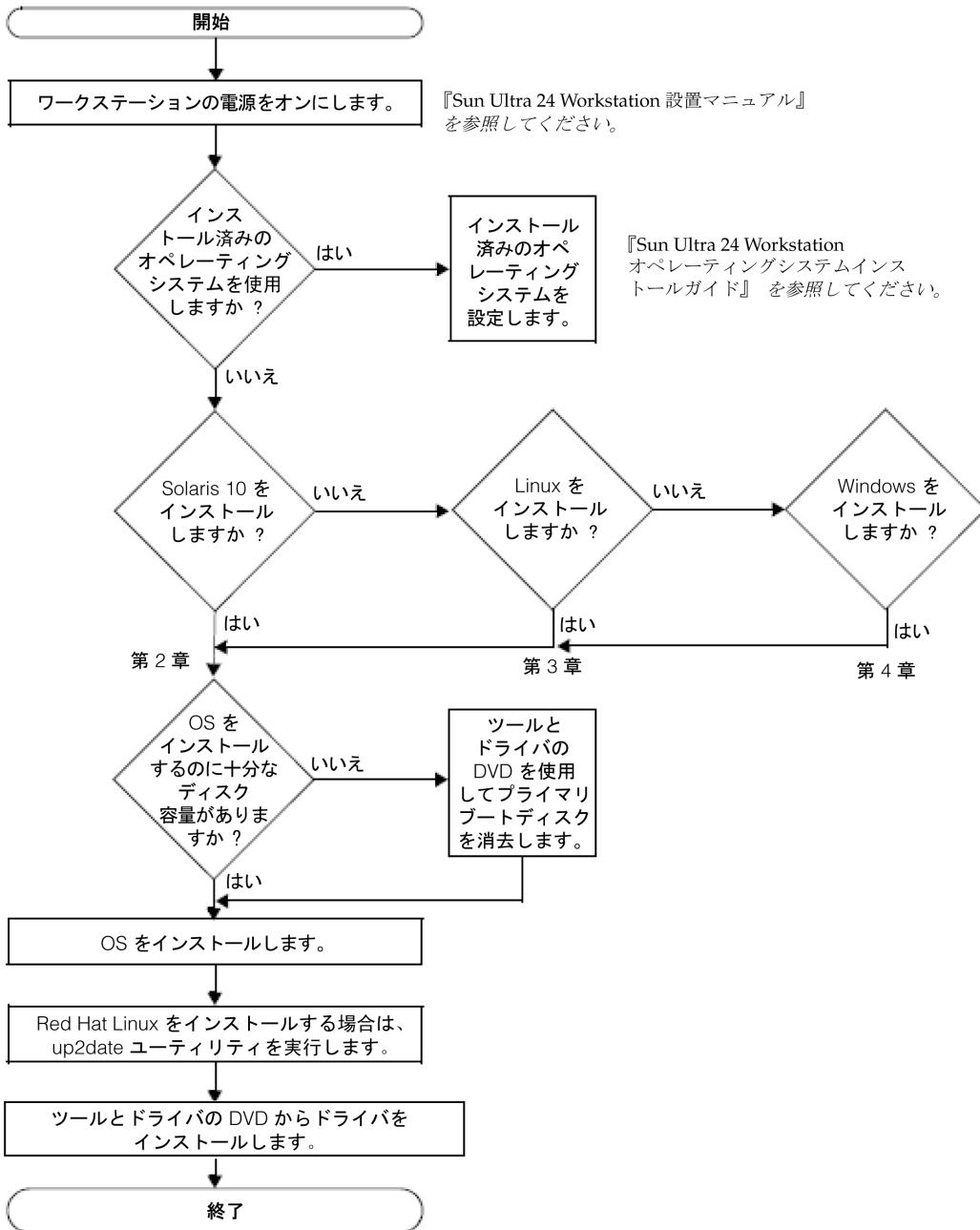
インストールの概要

本書では、インストール済みの Solaris オペレーティングシステム (OS) を使用しない場合に、OS をワークステーションにインストールする方法について説明します。

- Solaris OS のインストール手順については、[第 2 章](#)を参照してください。
- Linux OS のインストール手順については、[第 3 章](#)を参照してください。
- Windows OS のインストール手順については、[第 4 章](#)を参照してください。
- Linux および Solaris のリモートイメージについては、[付録 A](#)を参照してください。

[図 1-1](#) に、ワークステーションにオペレーティングシステムをインストールする際の手順を示します。

図 1-1 インストールの流れ



Solaris のインストール

この章では、インストール済みの Solaris OS を使用しない場合に、Solaris OS をワークステーションにインストールする方法について説明します。

この章には次のセクションがあります。

- セクション 2.1、「オペレーティングシステムの選択とアップデート」(2-1 ページ)
- セクション 2.2、「BIOS を Solaris 用に設定する」(2-2 ページ)
- セクション 2.4、「現在インストールされている OS の消去」(2-3 ページ)
- セクション 2.5、「Solaris OS のインストール」(2-4 ページ)
- セクション 2.6、「ドライバのインストール」(2-4 ページ)

2.1 オペレーティングシステムの選択とアップデート

ワークステーションには Solaris OS がプリインストールされています。以前の Solaris OS のバージョンはサポートされていません。

現在インストールされている Solaris OS のバージョンを置き換えるには、Solaris OS を次の Web サイトからダウンロードできます。

<http://www.sun.com/software/solaris/>

2.2 BIOS を Solaris 用に設定する

デフォルトでは、BIOS で SATA が IDE として設定されています。

- BIOS を変更していない場合は、この設定を実行する必要はありません。
 - BIOS で「Configured SATA as (SATA の設定)」オプションがデフォルトから変更されている場合は、次の手順を実行します。
1. ワークステーションの電源をオンにします。
 2. Sun のロゴ画面が表示されている間に F2 キーを押して「BIOS Setup (BIOS 設定)」メニューを表示します。
 3. 「Advanced (詳細)」、「Integrated Devices (統合デバイス)」の順に進みます。
 4. 「Configured SATA as (SATA の設定)」オプションを「IDE」に変更します。
 5. F10 キーを押して変更内容を保存し、BIOS を閉じます。

2.3 LSI RAID の設定

LSI で RAID アレイを設定するには、次の手順に従います。

1. ブート時の BIOS の間に、Control-C キーを押して、LSI 設定ツールを開きます。
2. 必要な SAS コントローラを選択して、Enter キーを押します。
3. 「RAID Properties (RAID のプロパティ)」を選択します。
4. 希望する RAID アレイのタイプを選択します。
5. RAID に含めるボリュームを選択します。

注 – SAS ボリュームと SATA ボリュームを RAID 内に混在させないでください。

6. アレイが設定されたら、変更を保存して終了します。

注 – IM アレイと IME RAID アレイを作成すると、自動リセットが実行され、キャッシュへの書き込み機能が有効になります。

2.4 現在インストールされている OS の消去

現在インストールされている OS を消去するには、ツールとドライバの DVD を使用してブートハードドライブ上のパーティションを消去します。「Erase Primary Boot Hard Disk (プライマリブートハードディスクの消去)」オプションを使用すると、診断パーティションを除くすべてのパーティションが消去されます。

2.4.1 診断パーティションについて

システム診断ソフトウェアでは、テストスクリプトを書き込むための診断パーティションが必要です。診断パーティションが存在しないと、診断画面には結果しか表示されません。

このセクションの手順では、診断パーティションは削除されません。

診断パーティションを誤って削除した場合は、ツールとドライバの CD の「Create Diagnostic Partition (診断パーティションを作成する)」オプションを使用して作成し、マウントし直すことができます。手順については、『*Sun Ultra 24 Workstation Service Manual* (Sun Ultra 24 Workstation サービスマニュアル)』を参照してください。

2.4.2 現在インストールされている OS の消去



注意 - 「Erase Primary Boot Hard Disk (プライマリブートハードディスクの消去)」オプションは、診断パーティションを除くハードドライブ上のすべてのパーティションとすべてのユーザーデータを消去します。この操作を開始する前に、ハードディスクの全データをバックアップしてください。

プライマリブートハードドライブ上の、診断パーティションを除くすべてのパーティションを消去するには、次の手順に従います。

1. ハードドライブ上に必要なデータがあれば、バックアップしておきます。
2. ツールとドライバの DVD をワークステーションに挿入します。
3. メインメニューが表示されたら、ツールとドライバの DVD のメインメニューから次のオプションを選択します。
3. Erase Primary Boot Hard Disk

このオプションを選択すると、プライマリハードディスクドライブ上に現在あるすべてのパーティション (診断パーティション以外) が消去されます。診断パーティションが存在する場合、このパーティションはそのままになります。

2.5 Solaris OS のインストール

Solaris OS をインストールする手順については、

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/817-0544> でオンラインドキュメントを参照してください。

以前作成したりモートイメージをインストールする場合は、[セクション A.2](#)、「[JumpStart™ サーバーからの Solaris のインストール](#)」(A-2 ページ)を参照してください。

2.6 ドライバのインストール

OS のインストールが完了したら、ツールとドライバの DVD に収録されているインストールスクリプトを実行して、OS に対応するドライバをインストールします。

ツールとドライバの DVD は、ワークステーションに付属しています。

注 – ツールとドライバの DVD には、診断パーティションの再作成とマウントのためのツールも収録されています。診断パーティションを誤って消去した場合を除き、この手順を実行する必要はありません。詳細については、『*Sun Ultra 24 Workstation Service Manual* (Sun Ultra 24 Workstation サービスマニュアル)』を参照してください。

Solaris OS の新規インストールを行っているときにドライバをインストールするには、次の手順に従います。

注 – プリインストールされていた OS のバックアップコピーを復元する場合は、ドライバを再インストールする必要はありません。

ドライバをインストールするには、次の手順に従います。

1. システムにスーパーユーザーとしてログインします。
2. ツールとドライバの DVD を DVD ドライブに挿入します。
Solaris OS により CD が自動的にマウントされます。
3. 次のコマンドを入力して、`/cdrom/cdrom0/drivers/sx86` ディレクトリに移動します。

```
# cd /cdrom/cdrom0/drivers/sx86
```

4. 次のコマンドを入力して、インストールスクリプトを実行します。

```
# ./install.sh
```

システムドライバがインストールされます。

インストールが完了すると、変更を有効にするためにシステムをリブートするよう求めるプロンプトが表示されます。

5. Y キーを押してサーバーをリブートするか、N キーを押してサーバーを手動でリブートします。
6. DVD ドライブから CD を取り出します。
7. ネットワーク情報を求めるプロンプトが表示されたら、サーバーへアクセスするためのネットワーク情報を入力します。

Linux のインストール

この章では、インストール済みの Solaris OS を使用しない場合に、Linux OS をワークステーションにインストールする方法について説明します。

この章には次のセクションがあります。

- セクション 3.1、「オペレーティングシステムの選択とアップデート」(3-1 ページ)
- セクション 3.2、「BIOS を Linux 用に設定する」(3-2 ページ)
- セクション 3.3、「LSI RAID の設定」(3-2 ページ)
- セクション 3.4、「現在インストールされている OS の消去」(3-3 ページ)
- セクション 3.5、「Linux OS のインストール」(3-4 ページ)
- セクション 3.6、「ドライバのインストール」(3-4 ページ)

3.1 オペレーティングシステムの選択とアップデート

このワークステーションでは、次の Linux オペレーティングシステム（またはそれより新しいバージョン）がサポートされます。

- Red Hat Enterprise Linux 4 WS Update 5、32 ビットおよび 64 ビット
- Red Hat Enterprise Linux 5 Client Update 0、32 ビットおよび 64 ビット
- SUSE 9 SP3、64 ビットのみ
- SUSE Linux Enterprise Desktop 10 SP1、64 ビットのみ

ワークステーションに対応する Red Hat Enterprise Linux WS または SUSE Linux Enterprise Desktop は、次の Sun Web サイトで購入できます。

<http://wws.sun.com/software/linux/index.html>

3.2 BIOS を Linux 用に設定する

デフォルトでは、BIOS で SATA が IDE として設定されています。BIOS で「Configured SATA as (SATA の設定)」オプションがデフォルトから変更されていない場合は、次の手順を実行します。

1. ワークステーションの電源をオンにします。
2. Sun のロゴ画面が表示されている間に F2 キーを押して「BIOS Setup (BIOS 設定)」メニューを表示します。
3. 「Advanced (詳細)」、「Integrated Devices (統合デバイス)」の順に進みます。
4. 「Configured SATA as (SATA の設定)」オプションを変更します。
 - Linux OS で内蔵 SATA がサポートされている場合は、「Configured SATA as (SATA の設定)」オプションを「AHCI」に変更します。
 - Linux OS が内蔵 SATA をサポートしない場合は、「Configured SATA as (SATA の設定)」オプションを「IDE」に変更します。
5. F10 キーを押して変更内容を保存し、BIOS を閉じます。

3.3 LSI RAID の設定

LSI で RAID アレイを設定するには、次の手順に従います。

1. ブート時の BIOS の間に、Control-C キーを押して、LSI 設定ツールを開きます。
2. 必要な SAS コントローラを選択して、Enter キーを押します。
3. 「RAID Properties (RAID のプロパティ)」を選択します。
4. 希望する RAID アレイのタイプを選択します。
5. RAID に含めるボリュームを選択します。

注 – SAS ボリュームと SATA ボリュームを RAID 内に混在させないでください。

6. アレイが設定されたら、変更を保存して終了します。

注 – IM アレイと IME RAID アレイを作成すると、自動リセットが実行され、キャッシュへの書き込み機能が有効になります。

3.4 現在インストールされている OS の消去

現在インストールされている OS を消去するには、ツールとドライバの DVD を使用してブートハードドライブ上のパーティションを消去します。「Erase Primary Boot Hard Disk (プライマリブートハードディスクの消去)」オプションを使用すると、診断パーティションを除くすべてのパーティションが消去されます。

3.4.1 診断パーティションについて

システム診断ソフトウェアでは、テストスクリプトを書き込むための診断パーティションが必要です。診断パーティションが存在しないと、診断画面には結果しか表示されません。

このセクションの手順では、診断パーティションは削除されません。

診断パーティションを誤って削除した場合は、ツールとドライバの CD の「Create Diagnostic Partition (診断パーティションを作成する)」オプションを使用して作成し、マウントし直すことができます。手順については、『*Sun Ultra 24 Workstation Service Manual* (Sun Ultra 24 Workstation サービスマニュアル)』を参照してください。

3.4.2 現在インストールされている OS の消去



注意 - 「Erase Primary Boot Hard Disk (プライマリブートハードディスクの消去)」オプションは、診断パーティションを除くハードドライブ上のすべてのパーティションとすべてのユーザーデータを消去します。この操作を開始する前に、ハードディスクの全データをバックアップしてください。

ブートハードドライブ上の、診断パーティションを除くすべてのパーティションを消去するには、次の手順に従います。

1. ハードドライブ上に必要なデータがあれば、バックアップしておきます。
2. ツールとドライバの DVD をワークステーションに挿入します。
3. メインメニューが表示されたら、ツールとドライバの DVD のメインメニューから次のオプションを選択します。
 3. Erase Primary Boot Hard Disk

このオプションを選択すると、プライマリハードディスクドライブ上に現在あるすべてのパーティション (診断パーティション以外) が消去されます。診断パーティションが存在する場合、このパーティションはそのままになります。

3.5 Linux OS のインストール

Linux のドキュメントの手順に従って、配布メディアから Linux をインストールします。

- Red Hat Enterprise Linux OS をインストールしている場合は、OS をインストールした後、ビデオドライバをインストールする前に、`up2date` ユーティリティを実行します。
- NVIDIA ビデオドライバが既にインストールされている場合は、`up2date` を実行した後に、`install.sh` スクリプトを実行します。

3.6 ドライバのインストール

OS のインストールが完了したら、ツールとドライバの DVD に収録されているインストールスクリプトを実行して、OS に対応するドライバをインストールします。

ツールとドライバの DVD は、ワークステーションに付属しています。

注 – ツールとドライバの DVD には、診断パーティションの再作成とマウントのためのツールも収録されています。診断パーティションを誤って消去した場合を除き、この手順を実行する必要はありません。詳細については、『*Sun Ultra 24 Workstation Service Manual* (Sun Ultra 24 Workstation サービスマニュアル)』を参照してください。

3.6.1 Linux ドライバのインストール

Linux ドライバをインストールするには、次の手順に従います。

1. システムにスーパーユーザーとしてログインします。
2. ツールとドライバの DVD を DVD ドライブに挿入し、次のように入力します。

```
# cd /mountpoint/drivers/linux/operating_system
```

各エントリの内容は次のとおりです。

`mountpoint` は DVD をマウントするディレクトリです。

`operating_system` はワークステーションにインストールされている Linux のタイプです。

- このディレクトリは存在しないと、DVD は自動マウントされません。その場合、[手順 3](#) および [手順 4](#) の操作を行い、DVD をマウントしてこのディレクトリへ移動する必要があります。
 - `operating_system` ディレクトリへ移動できた場合には、[手順 5](#) へ進みます。
3. DVD が自動マウントされない場合、端末ウィンドウを開き、次のコマンドを入力して DVD をマウントします。

```
# mount -o ro /dev/cdrom /mountpoint
```

`mountpoint` には、OS とオプティカルドライブの種類に応じたマウント位置を指定します。

次に例を示します。

```
# mount -o ro /dev/cdrom /mnt/dvdrom
```
 4. `/mountpoint/drivers/linux/operating_system` ディレクトリに移動します。

各エントリの内容は次のとおりです。

`mountpoint` は DVD をマウントするディレクトリです。

`operating_system` はワークステーションにインストールされている Linux のタイプです。

次に例を示します。

```
# cd /mnt/dvdrom/drivers/linux/red_hat
```
 5. 次のコマンドを入力して、インストールスクリプトを実行します。

```
# ./install.sh
```

X サーバーが起動していると、このスクリプトは実行されません。

 - スクリプトが異常終了し、エラーメッセージが表示される場合には、[手順 6](#) へ進みます。
 - スクリプトが正しく実行されたら、[手順 7](#) へ進みます。
 6. スクリプトが異常終了し、エラーメッセージが表示される場合には、次の手順で X サーバーを無効にします。
 - a. システムプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
% init 3
```
 - b. スーパーユーザーとしてログインします。
 - c. [手順 4](#) および [手順 5](#) を繰り返します。
 7. ドライバのインストールが完了したら、DVD を取り出します。
 8. ワークステーションをリブートします。

Windows OS およびドライバのインストール

Sun Ultra 24 Workstation は、次の Windows オペレーティングシステムに対応する WHQL 認定製品です。

- Windows XP SP2、32 ビットおよび 64 ビット (WHQL 認定)
- Windows 2003 Enterprise Server R2 SP2、32 ビットおよび 64 ビット (WHQL 認定)
- Windows Vista Ultimate、32 ビットおよび 64 ビット (WHQL 認定)

Windows のインストール方法には複数のオプションがあります。

- Windows CD を使用して Windows をインストールし、OS のインストール中やインストール後に手動でドライバをロードします。
- 2003Reburn スクリプトまたは XpReburn スクリプトを使用して、プラットフォーム、Intel SATA、および RAID ドライバを含む Windows CD を作成し、作成した CD を使用して OS をインストールします (ビデオドライバとオーディオドライバを別々にインストールしてください)。
- Windows OS およびドライバの RIS イメージを作成し、RIS サーバーから OS をインストールします。

注 - Windows OS の RIS イメージを作成する手順については、ツールとドライバの DVD に収録されている Readme ファイルを参照してください。

Windows XP OS およびドライバをインストールする順序は次のとおりです。

1. 必要に応じて、BIOS を Windows 用に設定します。[セクション 4.1、「Windows OS 用の BIOS の設定」\(4-2 ページ\)](#) を参照してください。
2. 必要に応じて、インストール済みの Solaris OS を削除します。[セクション 4.2、「診断パーティションについて」\(4-4 ページ\)](#) および [セクション 4.3、「ブートハードディスクドライブのパーティションの消去」\(4-5 ページ\)](#) を参照してください。

3. 次のいずれかのセクションを参照して、OS をインストールします。
 - セクション 4.4、「Windows の手動インストール」(4-6 ページ)
 - セクション 4.5、「XpReburn スクリプトによるドライバの入った Windows CD の作成」(4-9 ページ)

注 – OS をインストールする際に診断パーティションを削除しないでください。診断パーティションが消去されている場合は、『*Sun Ultra 24 Workstation Service Manual* (Sun Ultra 24 Workstation サービスマニュアル)』で Ultra 24 Workstation ツールとドライバの DVD の「Create Diagnostic Partition (診断パーティションを作成する)」オプションを使用する手順を参照してください。

注 – Windows XP は診断パーティションをマウントできません。対処方法の詳細については、『*Sun Ultra 24 Workstation Service Manual* (Sun Ultra 24 Workstation サービスマニュアル)』を参照してください。

4.1 Windows OS 用の BIOS の設定

このセクションでは、Windows OS、Intel SATA、および RAID 用にシステム BIOS および Intel Matrix Storage Manager オプション ROM の設定方法について説明します。

4.1.1 Windows OS、Intel SATA、RAID 用のシステム BIOS の設定

Windows OS、および Intel RAID (オプション) 用にシステム BIOS を設定するには、次の手順に従います。

1. ワークステーションの電源をオンにします。
2. 次の手順に従って、Windows 用に BIOS を設定します。
 - a. Sun のロゴ画面が表示されている間に F2 キーを押して「BIOS Setup (BIOS 設定)」メニューを表示します。
 - b. 「Advanced (詳細)」、「Integrated Devices (統合デバイス)」の順に進みます。
 - c. 「Configured SATA as (SATA の設定)」オプションを ICH9R SATA の場合は「AHCI」に、Intel RAID の場合は「RAID」に変更します。
3. F10 キーを押して変更内容を保存し、システム BIOS を閉じます。

4.1.2 Intel Matrix Storage Manager オプション ROM の設定

Intel Matrix Storage Manager オプション ROM を設定するには、次の手順に従います。

注 – RAID ボリュームを作成したら、新しく作成した RAID ボリュームからブートするように BIOS を設定する必要がある場合があります。

1. ワークステーションをリブートします。
2. Control-I キーを押して、Intel Matrix Storage Manager オプション ROM に入ります。
3. メニューオプション 1 を選択します。RAID ボリュームを作成し、次の設定を指定します。
 - a. RAID ボリュームに名前を付けます。
 - b. RAID レベル (0、1、5、10) を選択します。
 - c. アレイのディスクを選択します。
 - d. ストライプサイズを選択します (デフォルト: 128KB)。
 - e. ボリューム容量を選択します (デフォルト: ディスクの合計サイズ)。
 - f. 「Create Volume (ボリュームの作成)」を選択して、RAID ボリュームの作成を完了します。
4. 「5」を選択して、Intel Matrix Storage Manager オプション ROM を終了します。

注 – RAID ボリューム上の MBR を書き直す必要があります。それには、ツールとドライバの DVD を起動し、メインメニューで「4. Exit to DOS (DOS に移動)」を選択して DOS に移動します。DOS で、fdisk と入力します。ハードディスクのセクター 0 にブートセクター ID がないことを示すプロンプトが表示された場合は、Y キーを押してディスクを初期化します。

4.1.3 LSI RAID の設定

LSI で RAID アレイを設定するには、次の手順に従います。

1. ブート時の BIOS の間に、Control-C キーを押して、LSI 設定ツールを開きます。
2. 必要な SAS コントローラを選択して、Enter キーを押します。
3. 「RAID Properties (RAID のプロパティ)」を選択します。
4. 希望する RAID アレイのタイプを選択します。
5. RAID に含めるボリュームを選択します。

注 – SAS ボリュームと SATA ボリュームを RAID 内に混在させないでください。

6. アレイが設定されたら、変更を保存して終了します。

注 – IM アレイと IME RAID アレイを作成すると、自動リセットが実行され、キャッシュへの書き込み機能が有効になります。

4.2 診断パーティションについて

ツールとドライバの DVD には、診断 (システムテスト) ソフトウェアが収録されています。診断ソフトウェアの使用手順については、『*Sun Ultra 24 Workstation Service Manual* (Sun Ultra 24 Workstation サービスマニュアル)』を参照してください。

テストスクリプトをログファイルに書き込むには、診断パーティションが必要となります。診断パーティションが存在しないと、診断画面には結果しか表示されません。

Sun Ultra 24 Workstation には、診断パーティションがプリインストールされています。診断パーティションは、削除していない限りインストールし直す必要はありません。

診断パーティションを削除した場合は、ツールとドライバの DVD の「Create Diagnostic Partition (診断パーティションを作成する)」オプションを使用して作成し直すことができます。手順については、『*Sun Ultra 24 Workstation Service Manual* (Sun Ultra 24 Workstation サービスマニュアル)』を参照してください。

注 – Windows XP は診断パーティションをマウントできません。対処方法の詳細については、『*Sun Ultra 24 Workstation Service Manual* (Sun Ultra 24 Workstation サービスマニュアル)』(820-2480)を参照してください。

4.3 ブートハードディスクドライブのパーティションの消去

ブートハードドライブ上の診断パーティション以外のすべてのパーティションを消去するには、ツールとドライバの DVD のメインメニューにある「Erase Primary Boot Hard Disk (プライマリブートハードディスクの消去)」オプションを使用します。



注意 - 「Erase Primary Boot Hard Disk (プライマリブートハードディスクの消去)」オプションは、診断パーティションを除くハードドライブ上のすべてのパーティションとすべてのユーザーデータを消去します。この操作を開始する前に、ハードドライブの全データをバックアップしてください。

プライマリブートハードドライブを消去するには、次の手順に従います。

1. ハードドライブ上に必要なデータがあれば、バックアップしておきます。
2. ツールとドライバの DVD をワークステーションに挿入します。
3. メインメニューが表示されたら、ツールとドライバの DVD のメインメニューから次のオプションを選択します。
3. Erase Primary Boot Hard Disk

このオプションを選択すると、プライマリハードディスクドライブ上に現在あるすべてのパーティション(診断パーティション以外)が消去されます。診断パーティションが存在する場合、このパーティションはそのままになります。

4. 確認メッセージが表示されたら、パーティションの削除を確定して実行します。
5. 指示が表示されたら、任意のキーを押してシステムをリブートします。

4.4 Windows の手動インストール

このセクションでは、オプションの NVRAID ドライバ、プラットフォームドライバ、およびディスプレイドライバとともに Windows を手動でインストールする方法について説明します。このセクションでは、Windows の完全なインストールプロセスについては説明しません。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- [セクション 4.4.1、「Intel SATA および RAID ドライバフロッピーディスクの作成」\(4-6 ページ\)](#)
- [セクション 4.4.2、「フロッピーディスクを使用した Windows のインストール」\(4-7 ページ\)](#)
- [セクション 4.4.3、「フロッピーディスクを使用した Windows Vista のインストール」\(4-8 ページ\)](#)
- [セクション 4.4.4、「NVIDIA グラフィックドライバおよび RealTek オーディオドライバのインストール」\(4-8 ページ\)](#)

4.4.1 Intel SATA および RAID ドライバフロッピーディスクの作成

このセクションでは、Intel RAID ドライバの入ったフロッピーディスクの作成方法について説明します。このディスクは Windows のインストールプロセスで使用します。

要件

ブートディスクを使用して Intel RAID ドライバをインストールするには、次のものがが必要です。

- CD-ROM ドライブを持つ Windows システム
- 空のフロッピーディスク
- Sun Ultra 24 Workstation ツールとドライバの DVD
- RAID 設定の場合は、USB フロッピーディスクドライブ (2003/XP/Vista) または USB フラッシュ (Vista のみ)
- Windows 2003/XP/Vista インストールメディア (OEM 版以外)

フロッピーディスクの作成

Windows 32 ビットおよび 64 ビット用の Intel RAID フロッピーディスクを作成するには、DVD ドライブとフロッピーディスクドライブが搭載された Windows システムが必要です。

1. Windows ワークステーションに、ツールとドライバの DVD を挿入します。
2. DVD 上の次のディレクトリに切り替えます。次のコマンドを入力します。
`C:\> cd d:\utilities\`
3. OSReburn_x.x.zip を解凍します。
各エントリの内容は次のとおりです。
OS は XP または 2003 です。
x.x はバージョン番号です。
4. ワークステーションに空のフロッピーディスクを挿入します。
5. intel_ahci_xx.zip ファイルをフロッピーディスクドライブに解凍します。
ここで、xx は、32 ビットまたは 64 ビットを示す 32 または 64 です。

4.4.2 フロッピーディスクを使用した Windows のインストール

Windows 2003 または XP を Intel AHCI/RAID ドライバと一緒に Sun Ultra 24 Workstation にインストールするには、次の手順に従います。

1. ワークステーションに、USB フロッピーディスクドライブを接続します。
2. Windows 2003/XP 32 ビットまたは 64 ビットのインストール CD を DVD ドライブに挿入します。
3. 指示が表示されたら、F6 キーを押して、サードパーティー製 SCSI ドライバまたは RAID ドライバのインストールを開始します。
4. S キーを押してから Enter キーを押して、追加ドライバのインストールを指定して、フロッピーディスクを挿入します。
5. SATA の場合は Intel ICH9 SATA AHCI Controller を選択し、RAID の場合は Intel ICH9 SATA RAID Controller を選択します。
6. Enter キーを押して、Windows 2003/XP のインストールを続行します。
7. OS のインストールが完了したら、[セクション 4.4.4、「NVIDIA グラフィックドライバおよび RealTek オーディオドライバのインストール」\(4-8 ページ\)](#) の手順に従って NVIDIA グラフィックドライバと RealTek オーディオドライバをインストールします。

4.4.3 フロッピーディスクを使用した Windows Vista のインストール

Windows Vista を Intel AHCI/RAID ドライバと一緒に Sun Ultra 24 Workstation にインストールするには、次の手順に従います。

1. ワークステーションに、USB フロッピーディスクドライブまたはフラッシュドライブを接続します。
2. Windows Vista 32 ビットまたは 64 ビットのインストール DVD を DVD ドライブに挿入します。
3. DVD ドライブからブートします。
4. 画面の指示に従い、セットアップでドライバのロードを求めるプロンプトが表示されたら USB またはフラッシュドライブから AHCI/RAID ドライバをロードします。
5. SATA の場合は Intel ICH9 SATA AHCI Controller を選択し、RAID の場合は Intel ICH9 SATA RAID Controller を選択します。
6. 「次へ」をクリックしてドライバをロードし、インストールを続行します。
7. OS のインストールが完了したら、[セクション 4.4.4、「NVIDIA グラフィックドライバおよび RealTek オーディオドライバのインストール」\(4-8 ページ\)](#) の手順に従って NVIDIA グラフィックドライバと RealTek オーディオドライバをインストールします。

4.4.4 NVIDIA グラフィックドライバおよび RealTek オーディオドライバのインストール

Windows OS をインストールしたら、次の手順を実行して NVIDIA グラフィックドライバと RealTek オーディオドライバをインストールします。

1. ツールとドライバの DVD を DVD ドライブに挿入します。
2. 必要に応じて、次の手順に従って NVIDIA グラフィックドライバをインストールします。
 - a. 次のコマンドを入力して、ツールとドライバの DVD 上のディレクトリに移動します。

```
C:\> cd D:\drivers\windows\video\OS
```

ここで、OS は 2003、XP、または Vista です。
 - b. 実行可能ファイルを実行します。
 - c. インストールソフトウェアの指示に従って操作します。

3. 必要に応じて、次の手順に従って RealTek オーディオドライバをインストールします。
 - a. 次のコマンドを入力して、ツールとドライバの DVD 上のディレクトリに移動します。

```
C:\> cd D:\drivers\windows\audio\OS
```

ここで、OS は 2003、XP、または Vista です。
 - b. 実行可能ファイルを実行します。
 - c. インストールソフトウェアの指示に従って操作します。
4. ワークステーションをリブートします。

4.5 XpReburn スクリプトによるドライバの入った Windows CD の作成

2003Reburn スクリプトまたは XpReburn スクリプトを使用すると、Intel プラットフォーム固有のドライバおよび Intel RAID ドライバを含む Windows 用のインストール CD-ROM または ISO CD イメージを作成できます。

2003Reburn または XpReburn で作成した CD-ROM を使用すると、Windows OS と一緒にプラットフォームに固有のドライバや RAID ドライバをインストールでき、ドライバを個別にインストールするひつようがありません。

ツールとドライバの DVD には 2003Reburn スクリプトおよび XpReburn スクリプトが収録されています。2003Reburn スクリプトおよび XpReburn スクリプトに関する詳細については、`/utilities/OSReburn_x.x.zip` ファイル内の `readme.txt` を参照してください (ここで、OS は 2003 または XP、`x.x` はバージョン番号です)。

4.5.1 要件

2003Reburn と XpReburn を使用して Windows OS インストール CD を作成するには、次のものがが必要です。

- Solaris 10、RHEL、または SUSE を実行しているシステム
- CD バーナー
- 空の CD-R または CD-RW
- Windows 2003 または XP CD (製品版のみ、OEM 版は不可)
- Sun Ultra 24 Workstation ツールとドライバの DVD

4.5.2 2003Reburn または XpReburn の使用

Sun Ultra 24 Workstation 用ドライバおよび Intel RAID ドライバを含む Windows 2003 または XP インストール CD を作成するには、次の手順に従います。

1. Solaris OS、Red Hat、または SUSE システムで、ツールとドライバの DVD を挿入します。
2. スーパーユーザーとしてログインし、1.2G バイト以上の容量を持つ一時ディレクトリを作成します。
次に例を示します。

```
# mkdir /files
```

3. 2003Reburn_ または Xp Reburn_*version*.zip ファイルをそのディレクトリにコピーします。
ここで、*version* は、2003Reburn または XpReburn の最新のバージョン番号です。
次に例を示します。

```
# cp /utilities/XpReburn_1.0.zip /files
```

4. ツールとドライバの DVD を取り出して、製品版の Windows 2003 または XP CD を挿入します。
5. 2003Reburn_ または Xp Reburn_*version*.zip ファイルを解凍します。次に例を示します。

```
# unzip -q XpReburn_1.0.zip
```

6. 2003Reburn スクリプトまたは XpReburn スクリプトを実行します。次に例を示します。

```
# ./files/XpReburn
```

7. ISO イメージを作成したら、空の CD-R または CD-RW を挿入してイメージを書き込みます。
8. CD を作成したら、CD をワークステーションに挿入し、CD から起動します。
9. OS のインストールが完了したら、[セクション 4.4.4、\[NVIDIA グラフィックドライバおよび RealTek オーディオドライバのインストール\] \(4-8 ページ\)](#) の手順に従ってグラフィックドライバとオーディオドライバをインストールします。

Linux および Solaris OS リモート イメージのインストール

A.1 PXE サーバーからの LINUX の インストール

次の手順では、PXE サーバーがシステムと同じネットワーク上に設定され、PXE イメージがサーバーにロードされていることを前提としています。

PXE サーバーから起動するには、次の手順に従います。

1. システムブート時の BIOS の間に、F8 キーを押してブートメニューを表示します。
2. 「Intel Boot Agent IBA GE boot (Intel Boot Agent IBA GE ブート)」オプションを選択します。
3. インストールするイメージを選択します。
4. インストールが完了したら、リブートします。
5. ツールとドライバの DVD から手動でドライバをインストールする手順に従います。

A.2 JumpStart™ サーバーからの Solaris のインストール

注 – この手順を開始する前に、Intel Ethernet ドライバ (e1000g) を含む Solaris イメージを作成して JumpStart サーバーに配置します。Solaris OS には、e1000g ドライバが含まれていません。Jumpstart インストールについては、『Solaris 10 7/07 インストールガイド (カスタム JumpStart/ 上級編)』(819-5778) を参照してください。

次の手順に従って、Solaris をインストールします。インストール済みの Solaris OS を再インストールするには、『Sun Ultra 24 Workstation Service Manual (Sun Ultra 24 Workstation サービスマニュアル)』(820-2480) を参照してください。

1. ブート時の BIOS の間に、F8 キーを押してブートメニューを表示します。
2. 「Intel Boot Agent IBA GE boot (Intel Boot Agent IBA GE ブート)」オプションを選択します。
3. システムがインストールプロセスを自動的に開始し、インストールが完了するとリブートします。
4. ドライバをプリロードするように JumpStart イメージが設定されている場合以外は、[セクション 2.6、「ドライバのインストール」\(2-4 ページ\)](#) の手順に従ってドライバをインストールします。